

# あかびらの 今と昔

今と昔のあかびらでは、どのように変化をしているのでしょうか。ここでは、昔の懐かしいイベントや風景、建物などを紹介していきます。

## 平成元年

広報あかびら No.517 発行 昭和64年1月1日 発行者 赤平市役所 編集 総務部企画課 印刷 広報広聴係 光文堂	人口と世帯 昭和63年12月1日現在 (住民基本台帳) 男 9,957人 女 10,857人 総人口 20,814人 世帯 8,042
---	---

5月から新しい元号に変わるのを控え、テレビなどでは「平成最後の〇〇」という言葉を多く見聞きします。今月号の今と昔は、あえて平成最初の「平成元年」を振り返ります。

「虹の映えるまち・赤平」。平成元年からスタートした赤平市新総合計画のキャッチフレーズです。石炭産業が厳しさを増す時代に、虹の持つ明るさや希望の架け橋といったイメージを赤平の将来像に重ね、活力あるまちづくりを目指しました。

広報1月号は唯一無二の「昭和64年」の発行①。人口はおよそ2万人でした。30年を経て、現在は半分に減ってしまいました。

2月には春高バレー(全国高等学校バレーボール選抜優勝大会)の北・北海道予選が総合体育館で行われました②。この大会には市内から赤平東高(男子)、赤平西高(女子)が出場しましたが、大会後の4月から西高は赤平高校になり③は開校式)、その後東高は平成2年に閉校して赤平高校に統合となりました。

4月10日、いずみ幼稚園が住友赤平小学校に併設され、66人の園児が元気に開園式に臨みま

した④。同じ住友地区には共同浴場がオープンし、年末には道内初のシルバーハウジングが住友日の出町に建設されました。

7月には住民票や各種証明書が茂尻支所や平岸連絡所で受け取れるようになりました。すぐに発行できるようになったのは「ファクシミリ」が導入されたおかげ。広報では住民サービスの向上として取り上げていますが、ファックスがニュースになることに時代を感じますね⑤。

平成元年は何とんでも「はまなす国体」の年。国体と元年後半のできごとは来月号に続く。



### 地域おこし協力隊通信

3月末日をもちまして、協力隊の任期3年が終了します。商店街活性化という仕事を通し、たくさんの方に会い、たくさんの方に支えていただいた3年間でした。

任期終了後も赤平に残り、自分のできる範囲にはなりますが、お役に立てることがあればお手伝いさせていただきたいと思っています。そして、私からも何か良いご報告ができるように新たなスタートを切り、頑張りたいと思います。

3年間、本当にありがとうございました！

地域おこし協力隊 近藤



いつもご協力・ご参加いただきありがとうございました。